

平成30年度第1回ゼニガタアザラシ科学委員会 議事概要

日時：平成30年6月12日14:00～15:30

場所：北海道地方環境事務所 会議室

議事1. 次期管理計画の策定スケジュールについて

○事務局より、資料1に基づいて説明

- ・3ヶ年の事業結果をきちんと評価するため、現行の管理計画（平成28年度～平成30年度）を1年間延長することとし、平成30年度中に評価手法を検討しつつ、平成31年度中に次期管理目標の検討を行い、平成32年度からの次期管理計画を策定することとしたい。
- ・平成31年度事業実施計画については暫定的に定め、次期管理計画の管理目標や被害状況、達成状況等を踏まえ期間中でも柔軟に改訂を行う。
- ・平成30年5月に開催された作業部会において、①仮に本年度も不漁であった場合も想定して評価手法を検討すべき、②幼獣を捕獲したことによる被害軽減効果が出てくるまでには時間がかかることを踏まえた評価が必要である一との意見があった旨紹介。

◆主な意見等

- ・次期管理計画は資料では3カ年計画であるが、5カ年計画となるのか。次期計画に向けた評価を行う期間を含めると時間的にどう進めるか。
→本管理計画は基本指針（鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針）に則ったものであり、原則3～5年であるが、期間の縛りは無いものと思料。評価に必要な期間を考慮した計画期間としたい（事務局）。
- ・計画期間を5年とし、3年目に見直しを行うなど、見直しを計画上想定して策定するのも一案。
- ・管理計画はいつまで（何期まで）継続できるのか。
→ゼニガタアザラシは現在、（鳥獣保護管理法に基づく）希少鳥獣に指定されており、希少鳥獣であるうちはいつまでという縛りは無い（事務局）。
- ・現在の実施計画の目標は管理計画策定時の生息頭数の80%となるように捕獲頭数と決めているが、これを達成できない場合の対応について今のうちに議論すべき。
→今年度の捕獲結果や被害状況を見て、来年度の実施計画の捕獲頭数を検討したい（事務局）。

○現行の管理計画を1年延長することについて科学委員会として承認された。

議事2. 平成30年度事業の実施状況について

○事務局より、資料2-1、資料2-2に基づいて説明

◆主な意見等

- ・菱目型の目幅は18cmでも大丈夫ではないか。
→地元漁師の意見として、春は当歳（pup）の運動能力がまだそれほどないので、サケの入りを考えて、目幅は20cm幅が良いと判断した。秋は当歳の運動能力もあがっており、18cm幅が良いかと思う（事務局）。
- ・刺し網による捕獲個体が幼獣に偏っているようだが、今後も継続するのか。

- あと1回くらいを予定している。大型個体の捕獲が見込まれる定置網による捕獲も併せて実施していく（事務局）。
- ・被害量について、魚体全部を捕食した場合は加味されていないのではないか。
→いわゆる「トツカリ喰い」しか計測されていない（事務局）。
 - ・定置網による混獲頭数が少なく思われる。
→昨年もさほど多くはない。春では余り混獲されていない（事務局）。
 - ・捕獲された幼獣のうち当歳（pup）の数はいくつか。
→細かく見ないと分からないが、目視ではへその緒や体重等から、少なくとも8割程度が当歳（pup）と思われる。
 - ・西側岩礁の捕獲数が少ないが、繁殖地放棄になっていないか。
→元々岬に比べ数が少ない。昨年も捕獲を行ったが今年は上陸数が多い印象（事務局）。
→西側岩礁地帯では繁殖はしておらず、子育てのみしているのだろう。確かに上陸数は昨年より多い印象だ（地元関係者）。
 - ・今年は漁獲量の割に被害量が少ない印象。常習個体を捕獲した可能性は？
→水中カメラ映像では大きい個体が少ない印象だが、現段階でははっきりとは分からない（事務局）。
 - ・秋は潮流が激しいので、菱目型の格子網は形状を維持できないのではないか。
→漁業者からも同様の意見があったが、それでも試してみたいという声もいただいている。うまくいかなければ角目型に戻すなど柔軟に対応したい（事務局）。
 - ・丈夫な六角目の格子網も製作できるのではないか。

議事3. その他

○事務局より、保護管理協議会を8月2日に開催する旨、報告

◆質問等

- ・特定希少鳥獣管理計画は、現在、ゼニガタアザラシしか策定されていないが、他に計画策定する予定はあるのか。
→ゼニガタアザラシは絶滅危惧種から外れたばかりということもあり、計画的な管理の手法を検討しながら管理を進める必要があり、特定希少鳥獣管理計画を策定している。他の種については現在のところ策定するという話を聞いていない（事務局）。
- ・日高さけます増殖事業協会の職員が実施したえりも町における被害の分析手法について、環境省事業の評価手法としても利用できるのではないかと委員より紹介があった。

以上